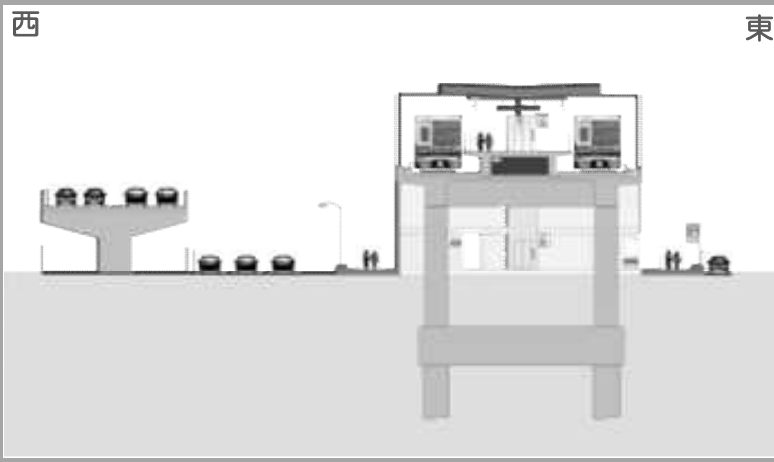


1-2. 工事進捗状況（シールドトンネル区間／線路部）



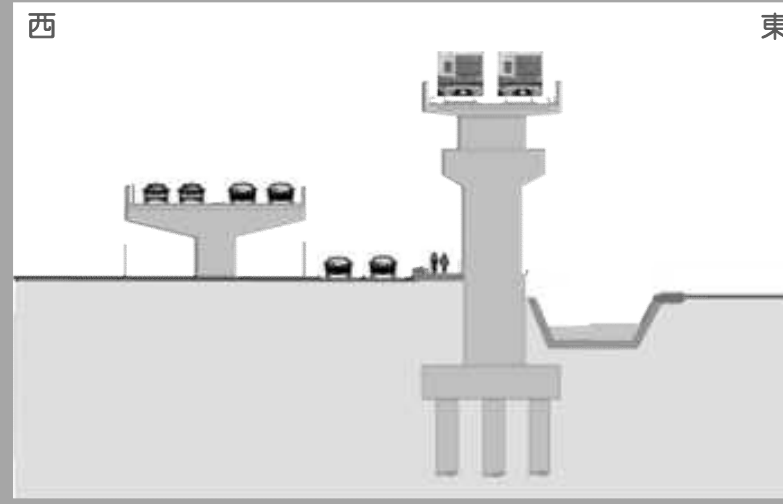
箕面萱野駅

高架区間



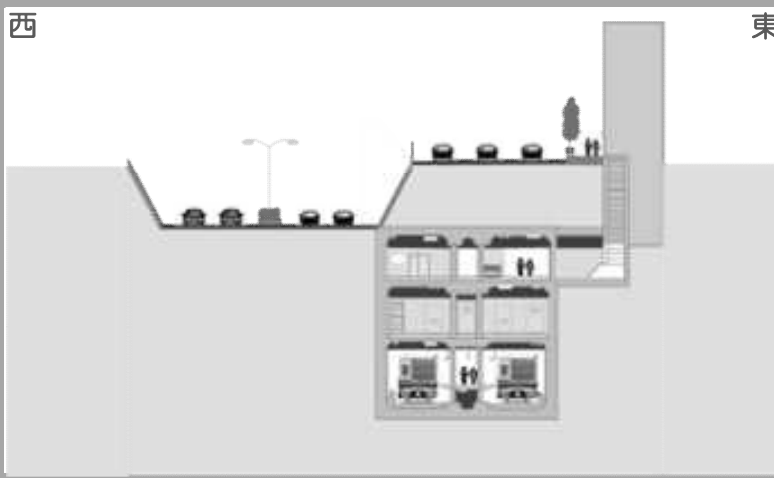
線路部

高架区間



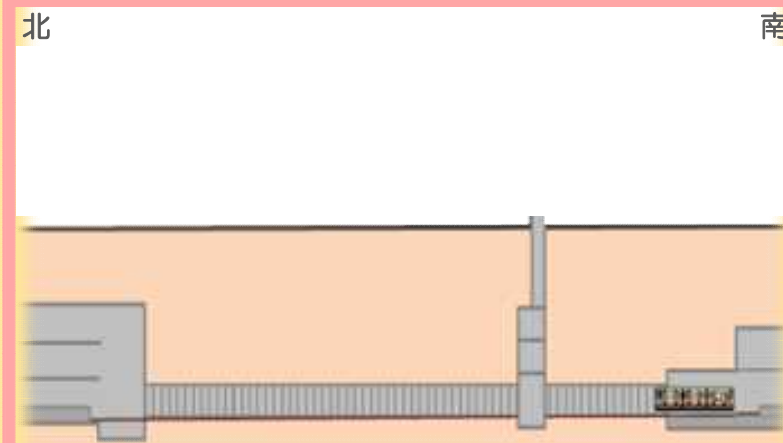
箕面船場 阪大前駅

開削区間

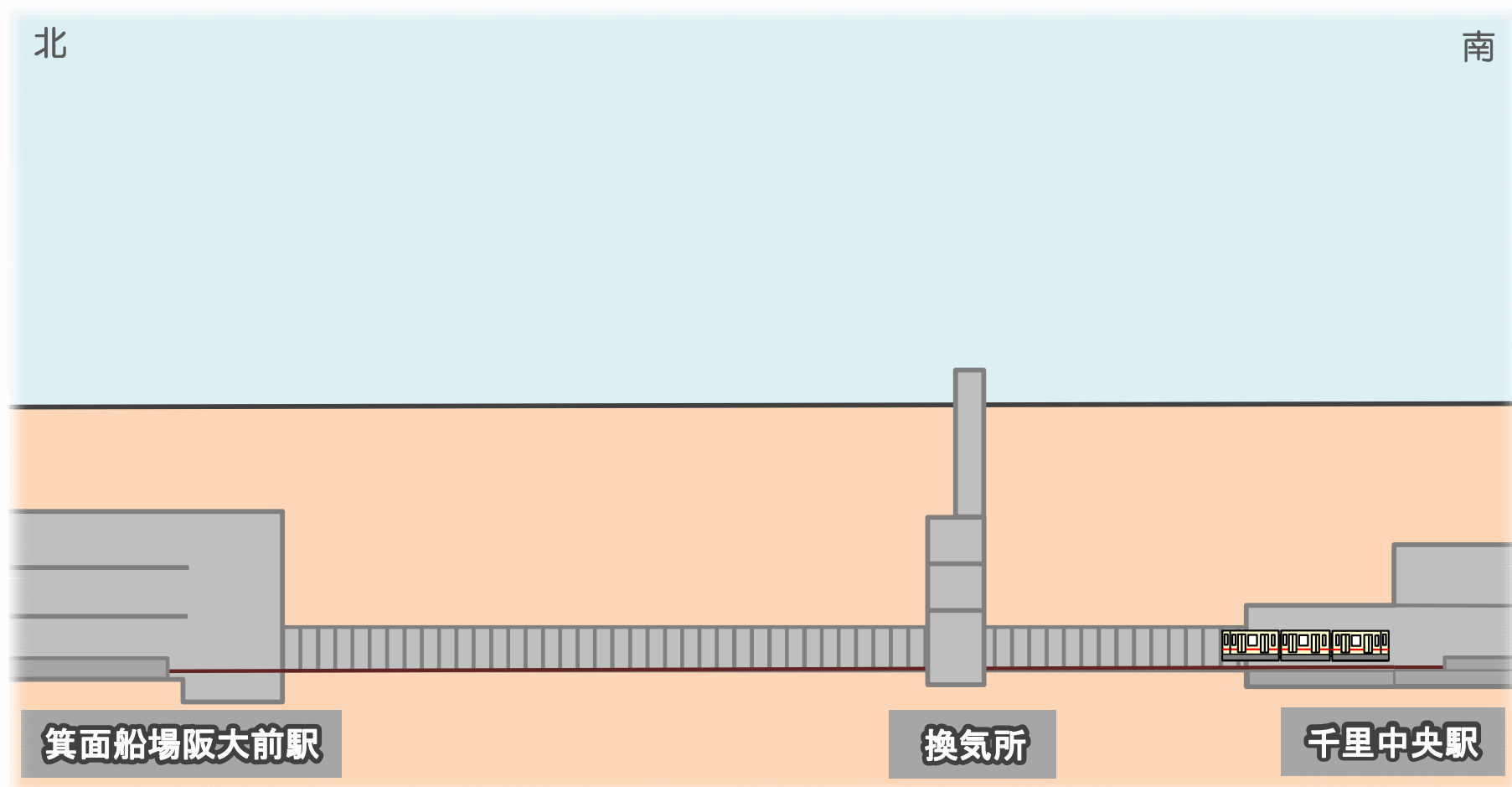


線路部

シールドトンネル区間



完成後のイメージ図



この図は、西京線の延伸区間の概略図を示しています。延伸区間の長さは約2.5kmと示されています。延伸区間の起点は西京駅（西京野駅）であり、延伸区間の終点は西京中央駅（西京中央駅）と見られます。延伸区間の途中には、西京駅前駅（西京駅前駅）と西京中央駅（西京中央駅）の2つの駅が設けられる予定です。延伸区間のルートは、西京駅（西京野駅）から西京駅前駅（西京駅前駅）まで、そして西京駅前駅（西京駅前駅）から西京中央駅（西京中央駅）までの2つの区間に分れています。延伸区間のルートは、西京駅（西京野駅）から西京駅前駅（西京駅前駅）まで、そして西京駅前駅（西京駅前駅）から西京中央駅（西京中央駅）までの2つの区間に分れています。延伸区間のルートは、西京駅（西京野駅）から西京駅前駅（西京駅前駅）まで、そして西京駅前駅（西京駅前駅）から西京中央駅（西京中央駅）までの2つの区間に分れています。



現在の様子 シールドトンネル(換気所～千里中央駅間)



北大阪急行線延伸事業費の全体事業費

全体事業費のイメージ図



年間614億円。延伸がもたらす経済波及効果は絶大！

鉄道の延伸は、交通の利便性を向上させるだけでなく、さまざまな経済波及効果をもたらします。改めて整備効果の検証を行ったところ、初期効果は3227億円、年間の効果は614億円となり、当初試算（平成26年2月）を大幅に上回りました。特に初期効果は、商業地の資産価値が向上した影響などを受けて、当初試算の約1.5倍となっています。

需要予測

延伸線には、**1日約4万5000人**が乗降すると見込まれています。

経済波及効果

初期効果

〈当初試算〉
2172億円 → **3227** 億円

地価上昇効果 **903.2億円**

鉄道によって交通利便性が上がることなどから、周辺の地価が上昇します。

延伸工事に伴う経済波及効果

新たに雇用される労働者数：約8800人
生み出される経済波及効果：2324億円

工事に伴って雇用が創出されたり、資材などの生産が増加します。また、雇用された人の所得が消費に充てられることによって、間接的な経済波及効果が生まれます。

年間の効果

〈当初試算〉
578億円/年 → **614** 億円/年

延伸に伴う駅前整備や周辺の利便性向上により、人口が約4500人、事業所が480所余り増加すると見込んでいます。

商業施設などの売上の増加効果 **577億円/年**

新駅や沿線で商業施設が増加したり、既存の店舗で新駅利用者が買い物したりすることで、売上が増加します。

駅周辺道路や駅前広場の整備による効果 **27.7億円/年**

駅周辺の道路整備により利便性が向上するほか、イベント会場にもなる駅前広場が整備されることで、利用者が増加します。

など

新造車両と車両広告掲載事業について

北大阪急行線の延伸によって、10両×3編成分の新たな車両が必要となるため、北大阪急行電鉄株式会社が新たに整備します。大阪を南北に縦断する大動脈、御堂筋線のメリットを最大限に活用して、北大阪急行線延伸事業において新たに必要となる車両（10両×3編成）に市の魅力を施したラッピング車両を走らせ、開業の機運向上と定着並びに本市の魅力発信を進めます。



◀ 新造車両9000形

▼ 車いすスペース

各車両に1箇所設置予定です。スペースを従来より広くすることで、車いすの移動をスムーズに行えるようにしています。



▲ 内装デザイン

調色・調光可能なLED照明を車内照明に採り入れ「やすらぎの空間」を演出。木目調の化粧板やゴールデンオリーブ色のシートを使用。

一部木材（不燃性）を採用し落ち着いたある車内環境が提供されます。

新造車両と車両広告掲載事業について



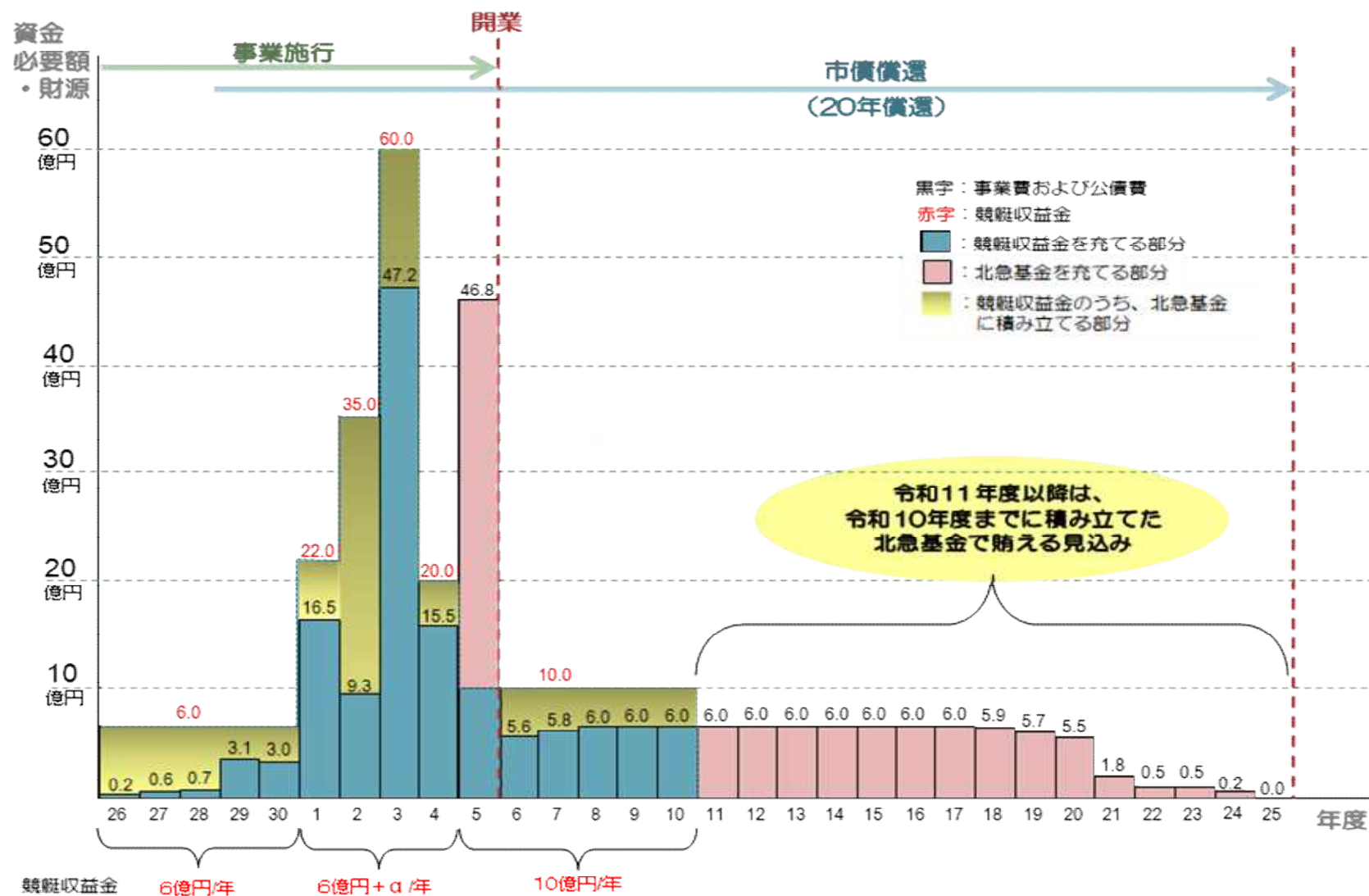
▲ ラッピングイメージ（イメージは北急50周年記念のラッピング車両）

1-3. 事業費と費用負担等（特定事業の収支計画）

財源充当の見通し（繰上償還前）

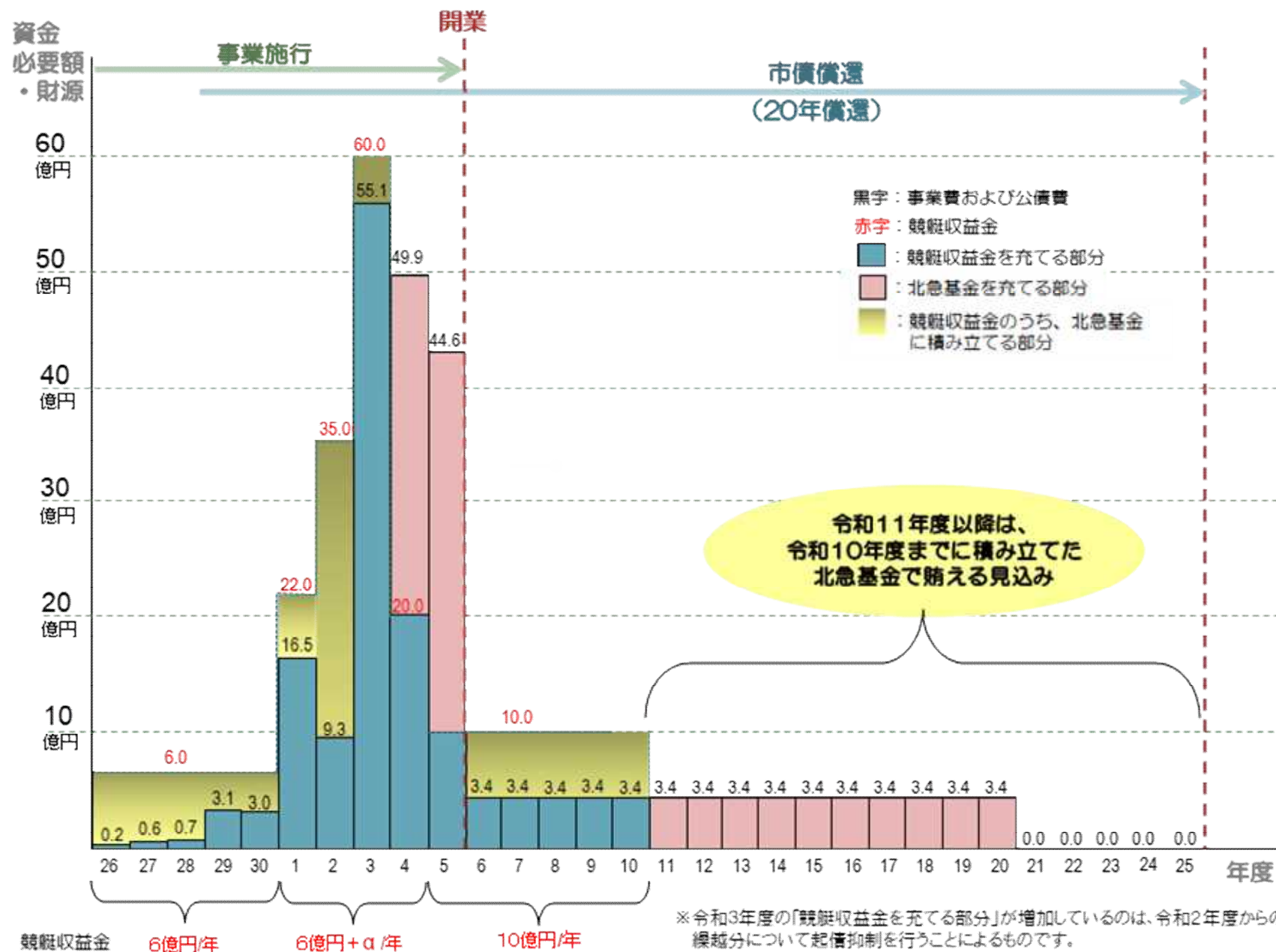
競艇事業会計からの繰入金は北急延伸事業化当時の見込値である6億円/年を大きく上回っており、北大阪急行線延伸整備にかかる市債の発行抑制に活用しています。

市債の発行抑制を実施してなお、現時点で市債を償還する資金が一定確保できていることから、財政負担の軽減を図るため、北急延伸事業債の繰上償還を実施します。



1-3. 事業費と費用負担等（特定事業の収支計画）

財源充当の見通し（繰上償還後）



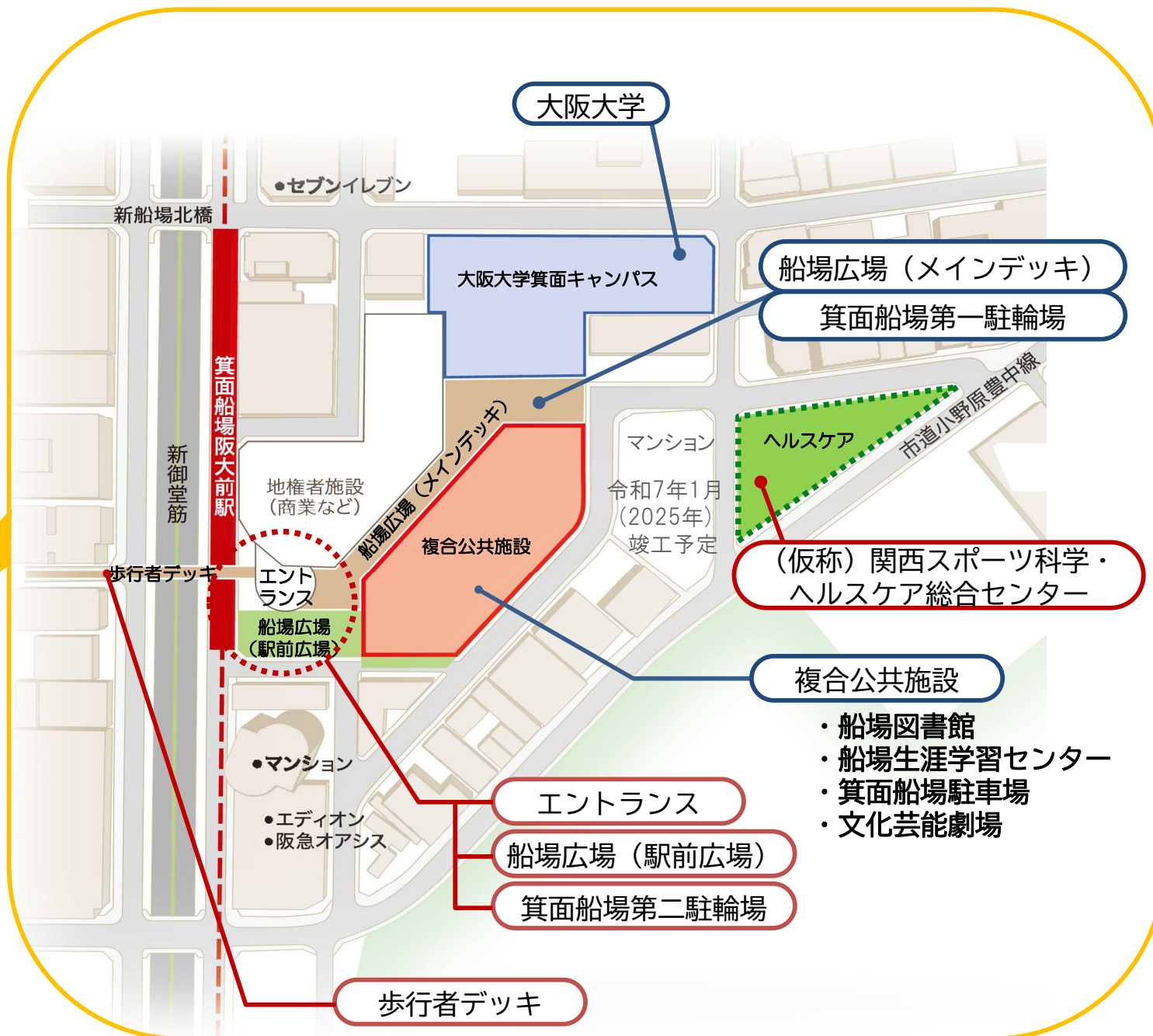
2. 新駅周辺のまちづくり

2-1. 箕面船場阪大前駅周辺のまちづくり(施設配置)

▼位置図



▼施設配置図



2-1. 箕面船場阪大前駅周辺のまちづくり(施設概要)

公共施設の整備等(令和3年度オープン)

船場生涯学習センター 指定管理者：大阪大学

- ・会議室や多目的室、音楽スタジオのほか、屋外運動場などを備えた施設

船場図書館 指定管理者：大阪大学

- ・萱野南図書館を移転し、萱野南図書館の蔵書11万冊と大阪大学の蔵書60万冊をあわせて閲覧・貸出できる図書館

文化芸能劇場 指定管理者：PFI箕面船場まちづくり(株)

- 1,401席の大ホール
 - ・さまざまな演出に対応する舞台特殊設備を備えた理想的な音場かつ臨場感のある大ホール
- 300席の小ホール
 - ・シンプルなボックス型形状で多様なコンテンツの上演に対応する小ホール

箕面船場駐車場 指定管理者：PFI箕面船場まちづくり(株)

- ・24時間利用可能(普通車116台、自動二輪86台)

船場広場(メインデッキ) 指定管理者：PFI箕面船場駅前施設サービス(株)

- ・駅前の各施設にアクセスするメインストリート

箕面船場第一駐輪場 指定管理者：PFI箕面船場駅前施設サービス(株)

- ・メインデッキの下(1階部分)に整備された駐輪場
- ・自転車950台、原付495台

複合公共施設、船場広場(メインデッキ)、箕面船場第一駐輪場



文化芸能劇場(大ホール)



文化芸能劇場(小ホール)



船場図書館



船場生涯学習センター



公共施設の整備等

箕面船場第二駐輪場 指定管理者：PFI箕面船場駅前施設サービス(株)

- ・地下に自転車を収容する機械式駐輪場を整備予定
- ・地上にコンパクトな入庫口を整備予定
- ・自転車286台

船場広場(駅前広場) 指定管理者：PFI箕面船場駅前施設サービス(株)

- ・芝生やベンチを設け、市民の憩い・交流の場となる駅前広場を整備予定

歩行者デッキ

- ・新御堂筋をまたぐ幅4.5～6.5mの歩行者デッキを設置
- ・西側からの利用者の利便性を確保

エントランス

- ・地下駅である箕面船場阪大前駅の昇降口を整備
- ・地下空間ながらも自然光が降り注ぐ開放的な吹抜空間

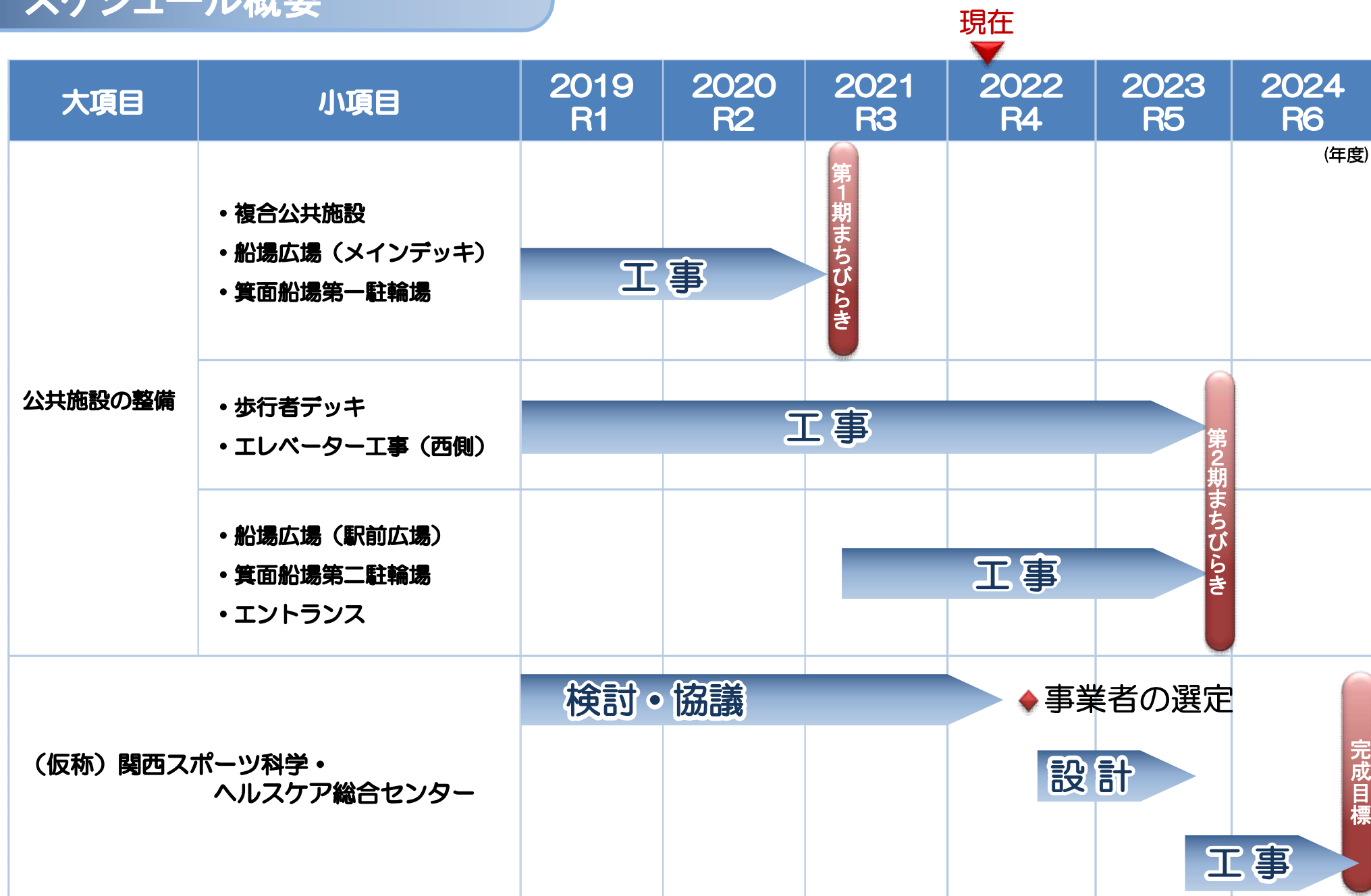


(仮称)関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター

- ・大阪大学、大阪船場繊維卸商団地協同組合、箕面市及び参画企業でセンター設立の検討
- ・大阪大学の医科学研究科による予防医学研究を進め、健康増進の取組みを発展させ、市民へ広く還元
- ・ヘルスケア製品の開発やリハビリ指導実践等により蓄積したデータを基に予防医学研究を進め、健康寿命の延伸に資するヘルスケア拠点を形成

2-1. 箕面船場阪大前駅周辺のまちづくり（スケジュール）

スケジュール概要

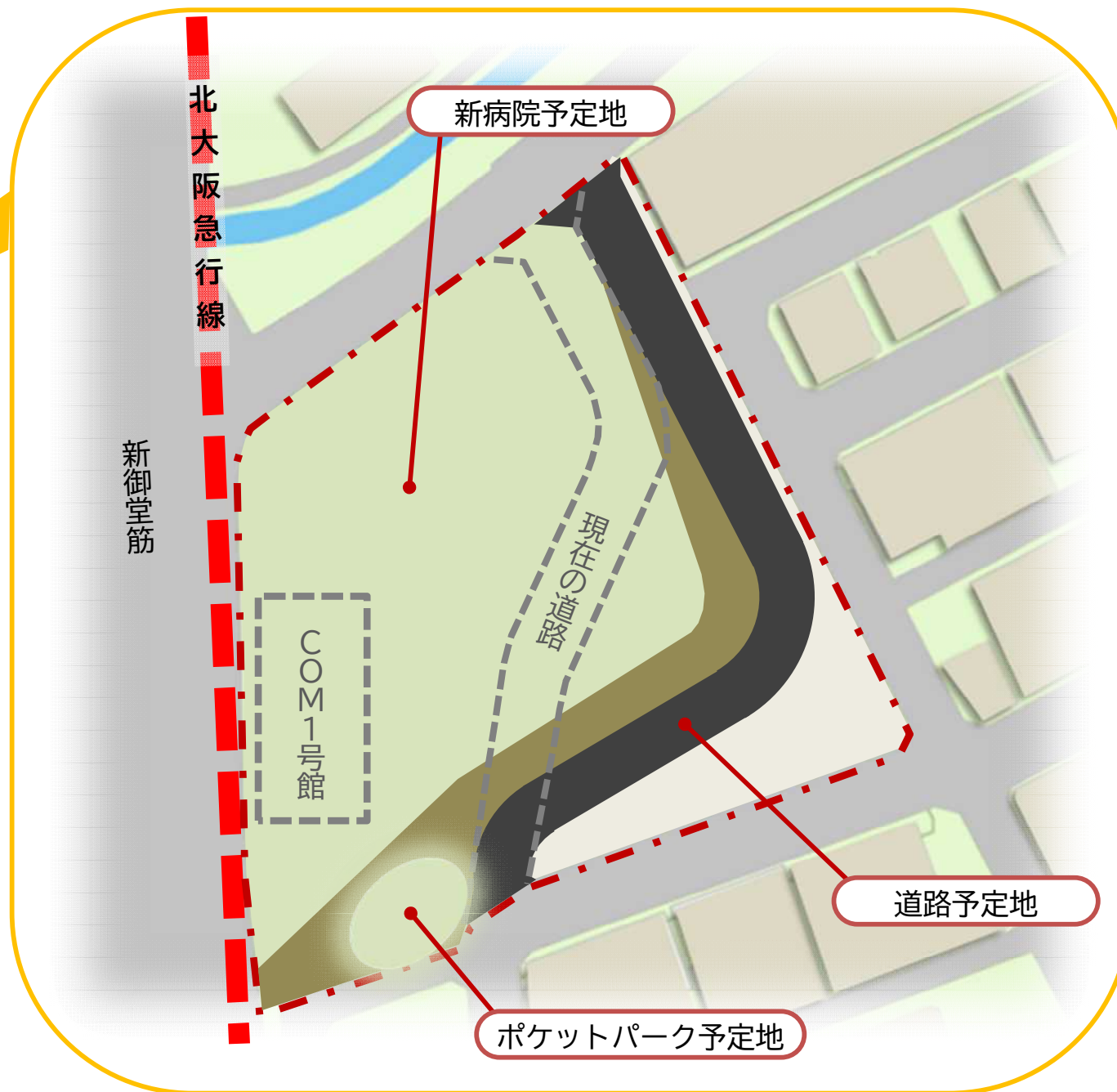


2-2. 新病院予定地の周辺整備(施設配置)

▼位置図



▼施設配置図



2-2. 新病院予定地の周辺整備(施設概要・スケジュール)



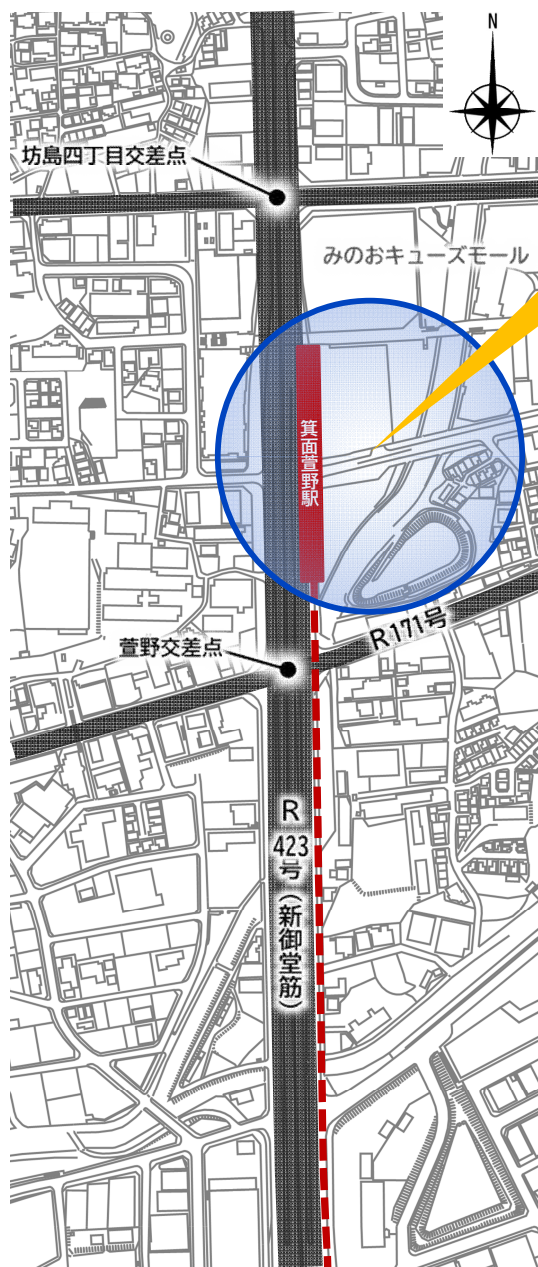
今後のスケジュール

現在

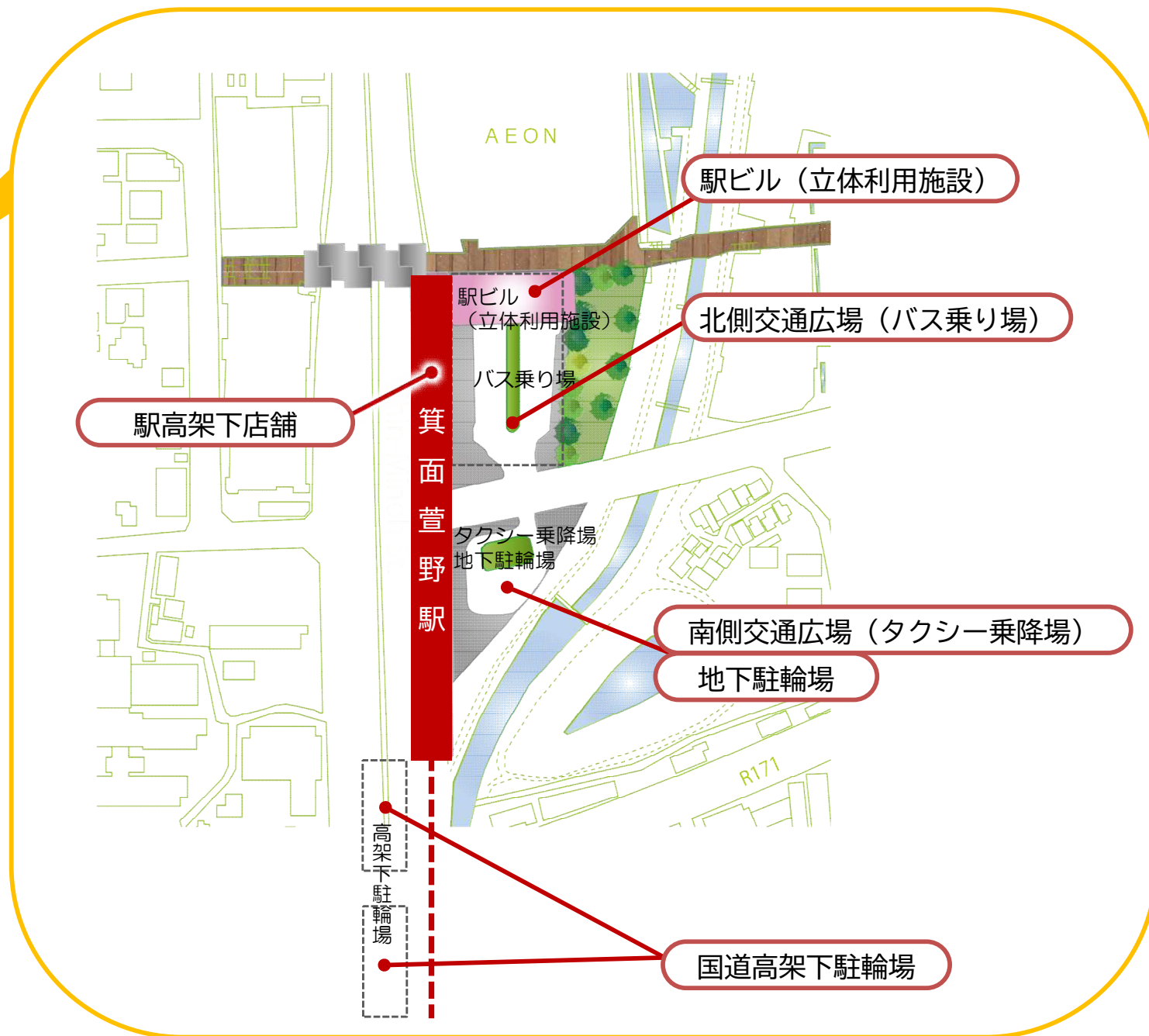
	2022 R4	2023 R5	2024 R6	(年度)
道路の付替え	工事			
ポケットパークの整備			工事	
COM1号館解体	工事			

2-3. 箕面萱野駅周辺のまちづくり(施設配置)

▼位置図



▼施設配置図



施設の整備

交通広場の整備

- バス乗り場、タクシー乗り場、駐輪場など、ターミナル駅にふさわしい機能を整備

駅ビル（立体利用施設）、駅高架下店舗の整備

- 子育てを核としたまちの新たな賑わいの拠点となる施設を整備

事業者：東急不動産株式会社

北側交通広場



今後のスケジュール

	2020 R2	2021 R3	現在 2022 R4	2023 R5	2024 R6 (年度)
交通広場 駐輪場		設計		工事	
駅ビル 駅高架下店舗		◆事業者の選定 設計		工事	

まちびらき

2-4. バス路線の再編

現在のバス路線では、箕面市内を運行する路線の多くが、千里中央駅を起終点としたフィーダー型の路線となっており、南北方向の移動には便利な一方で、市内の東西移動が不便な状況です。

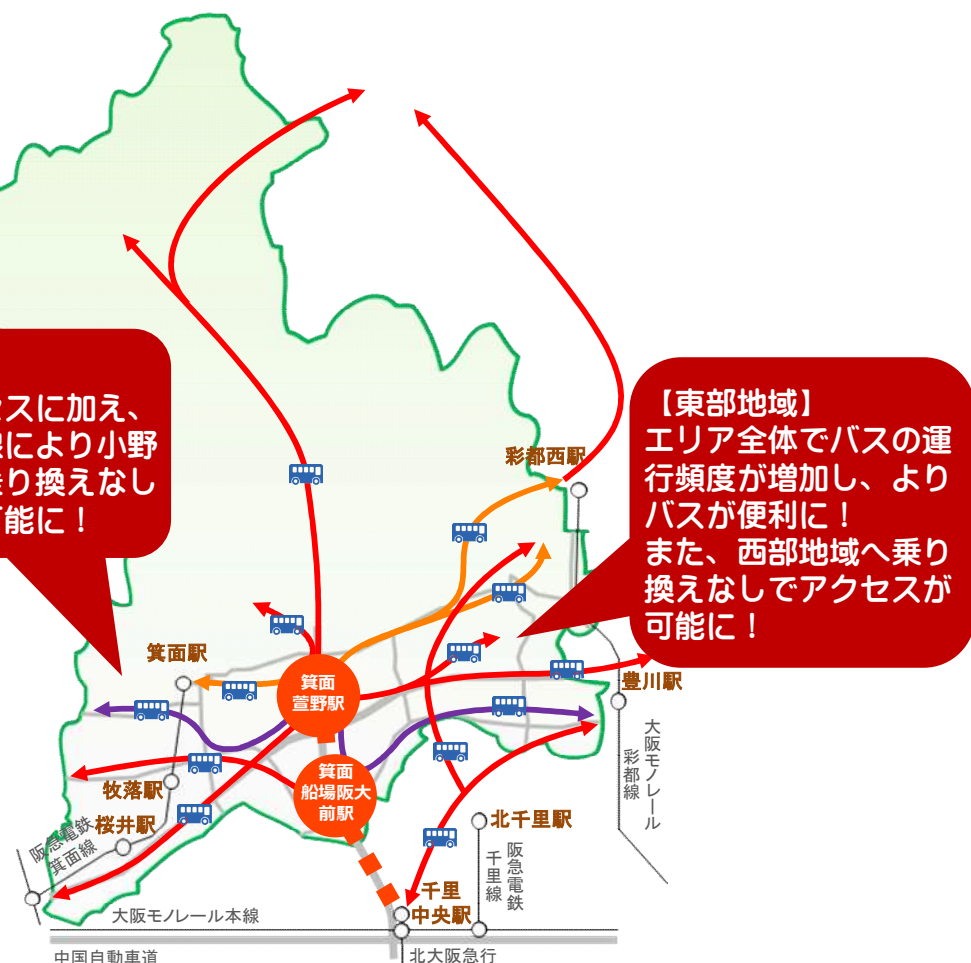
北大阪急行線の延伸にあわせて、新たに整備される箕面萱野駅を中心とした路線バス網に再編することで、市内各地域から大阪都心へのアクセス強化を図るとともに、市内移動・東西移動の充実により、箕面市が持続的にぎわいと活力にあふれるまちとなることを目指します。

▼現在のバス路線（イメージ）



▼再編後のバス路線（イメージ）

【西部地域】
新駅へのアクセスに加え、
東西一体型路線により小野
原や彩都へも乗り換えなし
でアクセスが可能に！

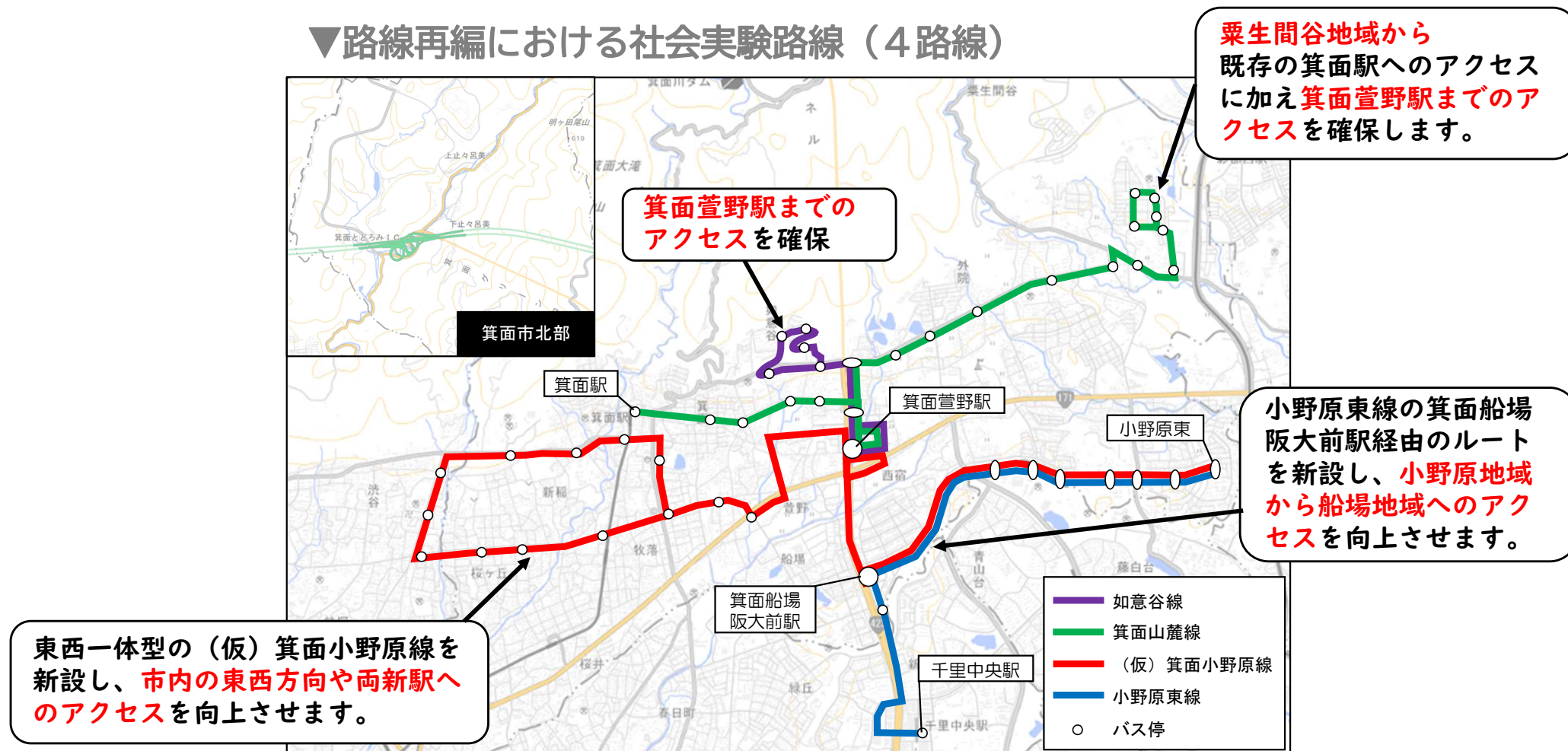


【東部地域】
エリア全体でバスの運
行頻度が増加し、より
バスが便利に！
また、西部地域へ乗り
換えなしでアクセスが
可能に！

2-4. バス路線の再編

北大阪急行線の延伸に伴うバス路線再編にあたって、一部の路線は、社会実験路線として設定し、実験期間中のバスの利用実態に応じて路線の存廃や路線のあり方を検討します。路線を維持していくためには皆様のバスの利用が不可欠ですので、ご協力をお願いします。

▼路線再編における社会実験路線（4路線）



社会実験路線

阪急バスが費用負担

如意谷線
箕面山麓線
小野原東線(箕面船場阪大前経由千里中央行)

箕面市が費用負担

(仮)箕面小野原線

2-4. バス路線の再編

現在、箕面市では地域公共交通の将来像を示した「地域公共交通計画」の策定を進めており、令和4年8月に計画を策定する予定です。その具体的な取組内容であるオレンジゆずるバス網の再編、公共交通の利用促進策、公共交通を利用しやすい環境・情報提供等を位置付けた「利便増進実施計画」を作成します。

また、オレンジゆずるバスの再編については、市民参加型のワークショップを中心に議論を進め、再編案を検討していきます。利便増進実施計画作成およびオレンジゆずるバス再編のスケジュールは以下のとおり予定しています。

